

バロー、安八に食品工場

28年稼働弁当、総菜の製造拠点

バローホールディングス(HD)は、安八郡安八町中の安ハスマートインターチェンジ(IC)工業団地に、食品製造工場と物流センターを整備する。食品工場はスーパーマーケットのバロー、ドラッグストアのVドラッグ向けとなる米飯、弁当、総菜などの製造拠点にしたい考え。いずれも2028年7月の稼働を計画する。

(松浦健司)

方畠を建設。冷凍、冷蔵、水溫、定溫の食品4溫度帯対応の通過型、在庫型のセ

ンターで、スーパー各店舗に商品を供給する物流拠点となる。多治見市、可児市、大垣市、愛知県豊田市などにも同様の物流拠点を持つ。

バローHDは製造、物流のグループ中核を担う事業の拠点を集中させることで、事業の効率化を図るとともに環境対策、災害時支

援対応などさまざまな相乗効果を生み出し、成長につなげるとしている。

物流センターも整備へ

工業団地は18年に開通した名神高速道路安ハスマートIC周辺に立地。整備事業を進める安八町が9月、同社を含む3社を優先交渉事業者に選んでいる。

事業計画によると、工場は子会社で総菜製造販売の中部フーズ(多治見市)が運用運営する。2万4700平方メートルの敷地に鉄骨造一部2階建て、床面積約1万平方メートルを建設する。同町の井戸水を利用し、米飯、弁当、総菜、冷凍パン生地な

どを製造する。

攻勢を強める関西地方での出店が増えているほか、バローでは水産のすしや北欧倶楽部のパン、Vドラッグでは弁当、総菜の販売が好調で、生産能力を上げて対応する。多治見市の2工場、静岡県島田市の工場に続き4拠点目となる。

物流センターは子会社で物流会社の中部興産(可児市)が担う。4万2900平方メートルの敷地に鉄骨造一部2階建て、床面積約2万平